

会議録

会議の名称	令和3年度第2回茨木市社会教育委員の会議
開催日時	令和4年1月27日(木) 午後6時～7時15分
開催場所	上中条青少年センター3階会議室(オンライン会議併用)
議長	三川俊樹
出席者	稲田 勲 今西幸蔵 大浦晴子(オンライン) 桑本由利子(オンライン) 佐野 明 高尾末男 高本 賢 古川美奈子 三川俊樹 (計9人)
欠席者	なし
事務局職員	岡田祐一 教育長 小田佐衣子 教育総務部長 上田雄彦 市民文化部長 松本栄子 教育総務部次長兼社会教育振興課長 木下典子 教育総務部歴史文化財課長 吉田典子 教育総務部中央図書館長 地頭江智 市民文化部文化振興課参事 小西勝二 市民文化部スポーツ推進課長 坪田建二 市民文化部スポーツ推進課参事 他職員(計12人)
議題(案件)	令和4年度社会教育の努力目標(案)について 生涯学習推進計画(案)について スポーツ推進計画(改訂版案)について
配布資料	会議資料

社会教育振興課長	<p>【開会】</p>
教育長	<p>【あいさつ】</p>
社会教育振興課長	<p>本日の会議は、感染症対策のためオンライン会議を併用し実施する。オンライン参加の大浦委員、桑本委員を含め全員が出席、茨木市社会教育委員条例第6条第3項の規定により、本会議は成立している。</p> <p>同条例第5条第2項に基づき、議事進行を三川議長にお願いする。</p>
三川議長	<p>令和3年度第2回「茨木市社会教育委員の会議」を開会する。</p> <p>感染症対策として、会議時間短縮を図り、午後7時までに終了予定で議事を進める。簡潔な議事進行にご協力いただきたい。また、オンラインでの参加の方に分かりやすいよう、発言の際は、冒頭にお名前を添えていただくようお願いしたい。</p>
	<p>【会議の公開】</p> <p>本会議は、平成30年度第1回の社会教育委員の会議において、「公開」と決定しているので「公開」とし、傍聴者の資料の閲覧及び持ち帰りも許可し、ホームページや情報ルーム設置の会議録の内容については、議長に一任とさせていただく。</p> <p>(傍聴者はなし。)</p> <p>案件「今年度の社会教育委員の活動」について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
社会教育振興課長	<p>今年度の社会教育委員を対象にした研修会の概要を報告する。</p> <p>近畿地区社会教育研究大会は、昨年11月22日から28日にオンデマンド方式で実施され、三川議長にご参加いただいた。大阪府社会教育振興協議会北ブロック研修会は1月13日に守口市で実施されたが、本市からの参加はなかった。例年3月に実施されている大阪府社会教育研究会議については、実施の有無を含めて、現時点で連絡はない。</p>
三川議長	<p>【近畿地区社会教育研究大会報告】</p> <p>基調講演が行われた11月22日は終日出張のため参加できず、11月28日に分科会2つに動画視聴という形で参加した。</p>

第3分科会『学校・家庭・地域の協働』中学校の再生と地域づくり～城北中学校区地域支援協議会の取組を通して～』については、京都府から、

・生徒指導上の問題が山積している状況であった2012年に協議会が結成された。

・保護者、支援者、学校の管理職などがよく打合せをし、中学生と対話しながら楽しく活動してきた。

・民生児童委員会、子育て支援協議会、防犯推進委員会など、様々な立場の人と連携し進めた。

・運営委員会は年7回、総会は年2回、会議は1時間程度を目途にしている。

・支援学級の授業や活動を支援する。

・できる時にできる活動をする、特定のメンバーに大きく負担をかけない。

など、地域と学校が協働することの意義やその効果、持続可能にするための取組等についての報告がされた。

第1分科会『社会教育委員の役割』いま改めて、社会教育委員会議・社会教育委員の役割を考える』については、奈良県から、

・人口10万人あたりの社会教育委員数が全国1位（35.0人。大阪府は4.1人）

・H26年度に、家庭と子どもの育ちに関する課題を、社会教育がフォローしなければならない喫緊の課題として認識し、取組みを始めた。

・県内のユニークな取組（3世代交流、“ふるさとことば”冊子作成、地域間交流活動等）について紹介。

・社会教育委員は、教育分野で最大の委員数。活性化すれば教育分野全体が活性する。

・今後の課題と可能性として、次の4点を提示する。①独任制（一人ひとりが独立して調査、研究、実践ができる）という利点を活かす、②委員間のネットワークを活用する、③社会教育主事との連携・協働により社会教育行政をけん引していく、④地域学校協働活動との関わりについて、地域学校協働推進員の役割、望まれる資質や能力は、社会教育委員と重なる部分が多く、しっかりと取り組んでいく必要がある。

などの報告があった。社会教育研究大会の報告は以上とする。

社会教育振
興課長

次の案件に入る。案件「令和4年度社会教育の努力目標について」は、事前に資料を送付し、各委員からの意見を頂戴した。各委員からの質問・意見と所管課からの回答を取りまとめた資料、それらを反映した「令和4年度社会教育の努力目標について（案）」を、会議資料として配布している。事務局から概要を説明後、各委員からご意見等をお願いしたい。

【努力目標（案）、質問・意見一覧概要説明】

令和4年度の努力目標（案）については、令和3年度からの修正点を赤字にして提案し、それに対する意見と、社会教育関連事業について意見をいただいた。それらの意見をふまえ、修正した点を青字で示したものを（案）として事前に送付するとともに、本日配布している。いただいた意見と、それらに対する回答、対応は「質問・意見一覧」に記載したとおりである。事前にお目通しいただいているので、要点のみ説明する。

赤字部分

- ・コロナ禍においても学びを通じた人とのつながりや、学びを止めないよう、ICT活用や、新しい生活様式を取り入れた対面での取組について言及している。
- ・生涯学習推進計画策定、スポーツ推進計画改定に基づいた施策の推進を追記した。

青字部分

- ・P2、3行目は、令和4年度新たに取り組むものとして追加した。「文化施設」を「文化施策」に修正をお願いする。
- ・P2、5行目、11行目は、意見一覧の（1）項番8、9に対応した修正である。
- ・P4、中ほど、意見一覧（1）項番11に対応し、ほっとけんアワードについて、「継続して」を追記した。
- ・意見一覧（2）項番9について、「ウィズコロナ」という言葉に対し場面や状況によって様々な捉え方があるため、「ウィズコロナに対応した」を「新しい生活様式を踏まえた」と修正した。

その他、SDGs、公民館活動についてなど、いただいた意見についての回答は、一覧に示したとおりである。これらの意見をふまえ、学校教育、子育て、地域コミュニティ、福祉等関係課と連携し、取り組んでいく。

三川議長	<p>ただいまの説明について、委員から意見はないか。事前にいただいた意見が適切に反映されているか。 今西委員、いかがか。</p>
今西委員	<p>毎年のことだが、きちんとまとめていただいて、社会教育委員の一人としてお礼申し上げます。 全体の感想として、意見一覧（１）にあるように、社会教育は教育であり、「教育性」を強調したほうがいいのではないかと思った。また、コミュニティスクールは大きな課題である。学校を助けるのが我々の仕事であり、社会教育委員として特に地域学校協働本部については、しっかりと考えていかないといけないと思っている。</p>
三川議長	<p>ご指摘の点、私としても、さきほどの研究大会報告でも述べたように、気になっていた点である。 その他、意見がないのであれば、提示した案を骨子として、若干の文言修正があるようなのでそちらは議長一任とさせていただきます、「令和４年度社会教育の努力目標」として決定してよろしいか。</p>
委員	<p>【異議なし】</p>
三川議長	<p>決定した「令和４年度社会教育の努力目標について」は、年度当初に委員の皆様へ送付する。 次に、生涯学習推進計画（案）及びスポーツ推進計画（改訂版案）について、事務局から説明をお願いします。</p>
文化振興課 参事	<p>【生涯学習推進計画（案）・概要について説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画期間は、令和４年度から令和１３年度までの１０年間とする。 ・２月１日から２５日までパブリックコメントを実施、意見を反映し、３月の審議会にかけ策定する。 ・平成３０年度に実施したアンケート調査からみえる課題、社会の動向と市の現状から、本市の課題を整理した。 ・めざす姿として、「きらめき はばたく まなびのまち 茨木」をキャッチフレーズとする。 ・「まなびづくり」「ひとづくり」「まちづくり」を３つの基本目標とする。

<p>スポーツ推進課参事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習はあらゆる学習を含む。本計画は基本的な方向づけであり、庁内で連携を取りながら、各課で立案、またはそれぞれの現在の取組を活かして施策を進めていく。 ・冊子本体P 1に、生涯学習の位置づけの図を示した。個々の学習と教育の連携、循環により、「生きる力」を身に付けてもらいたい。 <p>【スポーツ推進計画（改訂版案）・概要について説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画期間は平成28年度から令和7年度までの10年間で、令和2年度が見直し年だったが、コロナ禍により令和3年度の見直しとなった。 ・2月1日から25日までパブリックコメントを実施、意見を反映し、3月のスポーツ推進審議会にかけ策定する。 ・「すべての市民がいつでも・どこでも・いつまでもスポーツに親しみ、健康で豊かに暮らせるまちづくり～市民のスポーツの推進と生涯スポーツ社会の実現をめざして～」を基本理念とする。 ・国・府計画等との整合性からみる課題（スポーツ施設の全体最適化、競技スポーツの推進、SDGs達成に向けた取組の推進）、茨木市におけるスポーツ活動等の現状（新型コロナウイルス感染症拡大によるスポーツ教室受講者減少、スポーツ施設利用者減少等）、5年間の状況や取組から見える課題（東京2020に向けて開始したトップアスリート支援の位置づけ、新しい生活様式に対応したスポーツ活動の継続支援等）及び、公民館、スポーツ活動団体へのアンケートから把握した団体が抱える課題から、改訂に向けた課題と方向性を検討した。 ・基本目標1では、多様な生涯スポーツの普及・啓発として新型コロナウイルス感染症に対応したスポーツ活動支援や競技スポーツの推進を拡充し、基本目標2ではスポーツ施設の整備・充実を拡充項目とする。 ・庁内関係課の役割を明確にし、連携を図りながら施策を展開していく。 ・茨木市スポーツ推進審議会において、施策を検証・評価する。
<p>三川議長</p>	<p>生涯学習推進計画（案）について、新しい生活様式への対応についてふれているところはあるか。</p>
<p>文化振興課参事</p>	<p>冊子本体P45、取組「まなびづくり」の中で、新しい生活様式に対応した生涯学習として取り上げている。ICTを活用したオンラインでの学びとともに、安全に配慮しながらの対面での学びもしっかりや</p>

<p>高尾委員</p>	<p>っていきたい。距離を取るだけでなく、直接関わっていく、人間関係をつくる場としていきたい。</p> <p>生涯学習、スポーツ推進に関わる2つの計画を、このようにまとめていただいで感謝する。</p> <p>社会体育についてであるが、これまで体育協会としてお願いし取り組んでいただいている、施設の適正化と整備があげられている。他府県からも指摘のある一般規格のサッカー場の設置については、安威川ダム周辺整備に含めていただいている。みんなが取り組むスポーツからトップアスリート支援のための多様な競技施設の拡充、全体最適化、いわゆるハコモノの整備については時間がかかるものである、引き続きお願いしたい。また、大阪総体や三島総体は主に夏場に実施されるため、体育館空調やプール老朽化が問題となる。コロナや府北部地震への対応も大変とは思いますが、障害者のためのことも含め、長期的な施設拡充をお願いしたい。スポーツをすることによってみんなが健康となり、保健施策にも通じるといえる。</p> <p>地域活動については、年末はコロナ感染者数が少なくなりほのかな期待をしたのだが、年明けにはまたオミクロン株蔓延でストップした。職場の指示などもあり、催し物にも出ない、出たくない、という人もおり、地域の協力がないと活動はできないのだが、学校もナーバスになっている。コロナ禍による2年間の空白で、自治会、防災会、PTAも含め、いろいろな組織、活動がなくてもいい、という感じになっており、どこかでリスタートしたいところであるが、賛同していただける方、協力を得ることが難しくなっている。気持ちだけは持っているのだが、いかに取り組んでいくか課題である。また教授願いたい。</p> <p>学校運営協議会については、公立小・中学校で令和4年4月から始まると聞いているが、具体的にどんな形でやるのか、伝わってこない。現場でどのようにこなしていくのか、頭が痛いところである。</p>
<p>市民文化部長</p>	<p>スポーツ施設整備について、既存設備の修繕やバリアフリーを計画的に進めていく。安威川ダム周辺整備でサッカー場新設を進めており、1つの競技スポーツの拠点ができると考えている。スポーツ施設は避難所にもなるので、体育館アリーナ空調整備についても検討させていただいている。</p> <p>地域活動について、この2年間活動できなかったことも多かったと思うが、ご苦勞に感謝している。ウィズコロナ、アフターコロナとい</p>

<p>教育長</p>	<p>うことで、新しい生活様式をふまえ進めていただかないといけない。相談体制、情報提供を充実しながら進めていきたいと思っている。</p> <p>コミュニティスクール（学校運営協議会）については、令和4年度から小・中学校で始めると決めている。すでにある学校協議会を充実させていくという手法で進めていく。校長会、地域に話をしていく必要があるが、予算化ができていないため、まだ具体的に降ろせていない。地域の方々にはいろんな形で学校に関わっていただいております、市内一律にというのではなく、各地域の実情に応じて、次年度からコミュニティスクールを中心に、地域の意見を吸いあげ、学校とすり合わせてやっていく方向である。「学校・地域・家庭」が連携した取組として、学校を支える、学校と一緒に子ども達のことを考えてもらうということで、地域の意見を入れながら、地域とともにある学校という部分を進めていきたい。</p>
<p>高本委員</p>	<p>コミュニティスクールの準備は進めている。11、12月は地域の関わりが増えてきたところ、1月からまた放課後子ども教室、自主防災の訓練等中止となっている。もちつき大会も計画していたが、もち米を配って終わり、となってしまった。地域の方とは繋がりを保っているが、2年間の空白には焦っておられる。地域とつながっていきながら、次年度の活動が実施できるよう、工夫していきたい。</p>
<p>今西委員</p>	<p>スポーツ推進計画について、全体として国（スポーツ庁）の提案と整合性がありよくできている。</p> <p>まず感想として、高尾委員から「社会体育」について話があったが、この計画には、「体育の充実」といった言葉が見られない。スポーツとは競技という意味であって、「知・徳・体」という言葉があるように、教育の視点としてやはり「体育」は必要なのではないかと感じた。</p> <p>要望としては、総合型地域スポーツクラブ減少が課題としてあげられているが、スポーツクラブには家族で入っておられる。塾のようなことをしているスポーツクラブもある。家族でスポーツ、体育を楽しむことを推進することで人数も増えるのではないかと。また、さきほどの教育長の話にもあった、学校を応援するためのプラットフォームづくりの1つの核として、地域のスポーツ活動が非常に大事になると思っている。計画はほとんどできあがっているので、今後推進する際に配慮いただきたい。</p>

<p>スポーツ推進課参事</p>	<p>総合型地域スポーツクラブが学校を応援するためのプラットフォームになるという視点は、今後の参考にしたい。体育という言葉がスポーツに置き換わりつつあるという認識であったが、教育の観点としては、学校教育の中で体育の記述もしているように、学校教育推進課とも連携し進めたい。</p>
<p>稲田委員</p>	<p>生涯学習推進計画についてであるが、SDG s 達成に向けた取組についてお聞きしたい。17 の目標は行政だけでは達成できない、広く市民、地域組織との連携が必要だと思うが、どのような取組を今後進めていくのか。</p>
<p>文化振興課参事</p>	<p>本計画は、市の総合計画の分野別計画になるため、それとの関連を示すものとして、計画本体のP44、47、48に記載している。どの取組がどの課題の解消になるか、という具体的なところまでは示していないが、まなびづくり、ひとづくり、まちづくりの取組を行うことで、SDG s が掲げる課題の解消にもつなげていくことを位置付けている。</p>
<p>三川議長</p>	<p>パブリックコメントの実施方法についてお聞きしたい。</p>
<p>文化振興課参事</p>	<p>市HPに公開し、情報ルーム、公民館、コミュニティセンターに冊子を設置するほか、生涯学習計画（案）については生涯学習センター及び文化振興課窓口、スポーツ推進計画（改訂版案）については各市民体育館及びスポーツ推進課窓口にも設置する。意見提出方法は、市HPから専用フォームへの入力、電話、メール、FAXでも受けられるようにする。</p>
<p>三川議長</p>	<p>施設等に出向きにくい状況でも、またどのような方にも意見を出せるよう工夫してもらえているということで、安心した。</p>
<p>大浦委員</p>	<p>親まなび講座について、コロナにより、1つの学校で2、3回中止や、打合せもしたが中止、ということが続いている。サポーターへの研修をしてリモートでも実施できるようにしたが、対面実施を望まれることが多い。地域の講座も準備していたが中止となった。追手門学院大学では学生さん対象に対面実施ができた。サポーターとしても対</p>

	<p>面実施はモチベーションがあがっているのだが、コロナ禍での対応として、市民向け、活動団体向けにリモートの使い方の講習会を実施してほしい。市のプロアカウントが限られているとも聞いているが、推進していただかないとこういうことが続く。使い方がわかればリモートもできるようになる、できる方向に考えていくことが必要だと思う。</p>
三川議長	<p>11月10日に、私の大学で実施してもらった。今年度のゼミは、コロナ禍で4、5人のグループでの学習となっていて、学生からは、こんなことがしたかったと言われたが、現在はまた難しい状況となっている。</p>
社会教育振興課長	<p>親まなび講座については、サポーターの方には、研修などでオンライン実施の準備をしていただいたと聞いている。今後は、受ける方に対して、申込の際にオンライン可ということと、どのような手順をふんだらできるかを丁寧に説明するなど、受ける方の環境が整うよう、どういった対応ができるか検討していきたい。</p>
三川議長	<p>質疑は以上とする。 事務局から連絡事項等はあるか。</p>
事務局	<p>(社教連会報の配付、社会教育研究会議について)</p>
三川議長	<p>以上で、本日の予定案件は、すべて終了した。 これをもって、令和3年度第2回茨木市社会教育委員の会議を閉会する。</p>